



新年のごあいさつ

湯河原町長 米岡 幸男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
年頭に当たり、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年四月、湯河原町は、昭和三十年の湯河原 吉浜、福浦、二町一村の町村合併から五十年という大きな節目を迎えました。

この間、国際社会、日本の経済・社会はもとより本町も劇的な変貌を遂げましたが、今また人口減社会の到来 地方分権 国地方の税財政を見直す三位一体改革など、合併時以上に将来を見通すのが難しい状況にあります。しかしながら、転換期のただ中であって、困難な課題を着実に解決し、町の将来の安定した基盤を築くことは五十年前も今日も変わらぬ行政の責務であります。

本町では、この激動の時代を乗り切る新たなまちの姿を描くため、その指針となる「ゆがわら二〇〇一プラン」後期基本計画の策定や「まちづくり基本条例」の制定を進めていますが、時代に対する正しい認識と鋭敏な感覚を凝縮し、夢を盛り込むとともに、町民の皆様が参加しやすい仕組みを整え、プランに加えます。

民間との協働により既に動き始めた新たな施策もあります。スローフード大学設置のための構造改革特別区域への準備。この大学を中心に農業、漁業、製造業、観光業等が連携し、地域の活性化を図るとともに、次代を担う子どもたちの「食育」、町民皆様の「食の安全」にもつなげてまいります。

住民生活に直結する施策については、引き続き重点的に対処し、大地震の発生が憂慮される中、各小学校を優先に公共施設の耐震構造化を進めます。

ごども二一〇番制度、わんわんパトロール隊の発足、ふれあい給

食事業、更にはわんぱく広場のオープンなど、これまでも子どもたちと地域のつながりを強める施策に取り組んできましたが、児童の安全を確保するため、登下校時の赤バイ隊・消防車・パトロール車の巡回を徹底するほか、町民の皆様のご協力による見守りを強化したいと考えています。

高齢化率が県下でもトップクラスにある本町では、コミュニティバスの運行、バリアフリー化の推進など、すべての人にやさしいまちづくりに取り組んでいますが、昨年、城堀会館に開設した、住み慣れた地域の人々との交流の中で生涯を送ることのできる福祉サービスの実現の足がかりとなる「グループリビング」の充実、インターネットを使った「分野別健康チェック」の利用促進、「いきいき健康体操」の普及など、疾病・介護予防にも努めます。

観光立町湯河原の再生を確固たるものとする幕山の梅、城山のあじさい、星ヶ山のさつきと進めてきた四季彩のまちづくりが、いよいよ佳境に入り、この秋、「池峯もみじの郷」を一般公開します。その入口となる藤木川沿いの遊歩道をはじめ、「(仮称)鎌倉幕府開運街道」、老舗旅館内にある竹内栖鳳のアトリエや黒川紀章氏設計による茶室の公開など新観光ルートの整備を急ぐとともに、点在する名所スポットの回遊性を高めます。

依然として先行き不透明な時代は続きますが、様々な不安から抜け出すこととする気概があれば、明るい未来は必ず切り開かれます。町民皆様一人ひとりの元気、町全体の活気を引き出すため、これからも変革の勇気を持ち、結果を恐れず、積極果敢に諸課題に挑戦してまいります。キャッチフレーズは、「元気です、湯河原」。

本年も皆様の一層のご指導お力添えをお願い申し上げます。

